

中村やすひろ通信



新型コロナウイルスの感染拡大の終局が未だ見えない中、医療体制の逼迫状況は深刻です。「医療崩壊」を避け、命を守る医療体制の強化が求められています。私たち一人ひとりとしても、今一度、マスク・手洗い・デスタンスなど、出来る感染防止対策を徹底していききたいと思います。

令和3年1月 中村 康弘

医療関係者に心からのエールを！

議会報告 杉並区内の医療提供体制の強化を主張

杉並区議会令和2年第4回定例会にて一般質問を行い、4月に区が行った約23億円の財政支援後における区内基幹病院の経営状況を確認しました。各病院の収益は4、5月に減少したものの、6月以降は回復基調に転じ、区の財政支援が経営基盤を支える効果があったことが示されました。その上で、感染や経営難のリスクと直面しながらも、最前線でコロナと対峙し続けている医療従事者の方々への謝意を表しつつ、区と医療機関が一層強い協力関係を築き、地域医療体制の充実に努めるよう区に要望しました。

また、水害対策の質問では、東京都が、善福寺川上流部に約34万㎡の地下調節池を設置する計画が明らかになりました（詳細は裏面に）。



医療機関への新たな支援策が実現！

◆『入院患者受入医療機関支援事業』

11月に区内基幹病院のコロナ専用病床の稼働率が90%を超えた事態を受け、必要なコロナ専用病床と医療従事者の確保と、院内感染対策を実施する助成制度を含む補正予算が緊急に編成され、可決成立しました。

【補助対象】 河北総合、荻窪、東京衛生、佼成の各基幹病院（最大86病床）

【補助期間】 令和2年11月～令和3年3月

【補助額】 患者1人あたり10,000円を助成

また、人手不足などにより休業した診療所に対して1日5万8000円、業務を縮小せざるを得なくなった病院には1診療科当たり1日18万2000円を、それぞれ最大10日分助成する事業も開始しました。



次の症状がある方は、まずは電話でかかりつけ医へご相談ください。

- 息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある。
- 高齢者や基礎疾患があるなど、重症化しやすい方で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある。
- 上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続いている。
（4日以上続く場合は必ず、強い症状の場合はすぐに）。

◆ かかりつけ医がいない、相談する医療機関に迷う場合は以下に電話してください。

杉並区受診・相談センター 電話：3391-1299（平日午前9時～午後5時）

東京都発熱相談センター 電話：5320-4592（24時間・年中無休）

◆水害対策：34万 m^3 の調節池が善福寺川上流部に新設されます

(表面「議会報告」より) 東京都の令和3年度予算要求に「善福寺川上流調節池 基本設計」が盛り込まれました。長年の課題であった上中流部の水害対策に大きな一歩が踏み出されます。貯留量約34万 m^3 の大規模な計画で、川沿いにある公共用地などの活用が想定されます。今後実施される基本設計において、構造や取水施設等の検討が進められることになります。区民の生命と財産を水害から守るため、設置の早期実現に向けて、都と区が連携・協力して取り組んでいきます。



◆勤労福祉会館・西荻地域区民センターがリニューアルオープン

昭和59年に開設され、多くの方々に利用されてきた勤労福祉会館・西荻地域区民センターが、リニューアルオープンしました。受付を1階へ移動し、ホール内の座席の幅を広げるなどレイアウトが変更されました。1階ロビーは、落ち着いて過ごせる空間としてしつらえ、カウンターを学習にも活用できるようになりました。また、防災用発電機の配備や、マンホールトイレ、井戸等を設置するなど防災機能も強化されました。



◆西武新宿線・連続立体交差化の都市計画案が示されました

井荻駅西側から西武柳沢駅までの総延長約5.1kmを高架化することで、千川通りなど19箇所の踏切を除去し、交通渋滞の解消と安全性の向上を図る計画です。都市計画の決定、事業認可や工事説明会などを経て、最速で2023年度に着工し、2038年頃に立体化の完了を目指すという計画です。



(立体交差化後の上井草駅のイメージ)



(上井草駅北側の道路や駅前広場の整備も計画されています)



公式ホームページ 中村やすひろ

TEL: (03)3312-2831(区議会控室)

発行: 杉並区議会議員 中村康弘



中村康弘
facebook